

瀬戸口望コレクションの紹介 2

～志布志市井手平遺跡～

黒川忠広

はじめに

当館では、瀬戸口望氏が長年にわたり収集した資料を「瀬戸口望コレクション」として寄贈を受け、現在再洗浄や注記等の基礎作業を行っている。昨年度から図化作業を開始し、坂之上遺跡について報告を行ったところである。平成30年度は、井手平遺跡の採集資料を図化作業を実施した。

現在、瀬戸口氏がフィールドとした志布志市周辺は、東九州自動車道建設に伴う発掘調査や地域高規格道などの各種大規模事業により、多くの遺跡が発見・調査されている。今後、これらの成果は南部九州の先史時代のみならず、多くの時代や時期において新たな歴史観につながる発見も相次いでおり、調査成果に基づく研究の深化が期待されている。このような現状にあって、基礎資料の精査・図化作業もまた必修の作業であると考え、この一助となるべく継続的な情報発信に努めていきたい。なお、瀬戸口望氏やコレクションの概要については『黎明館研究報告30』に記しており、今回は省略させていただいた。

2 井手平遺跡資料の紹介

(1) 遺跡の概要

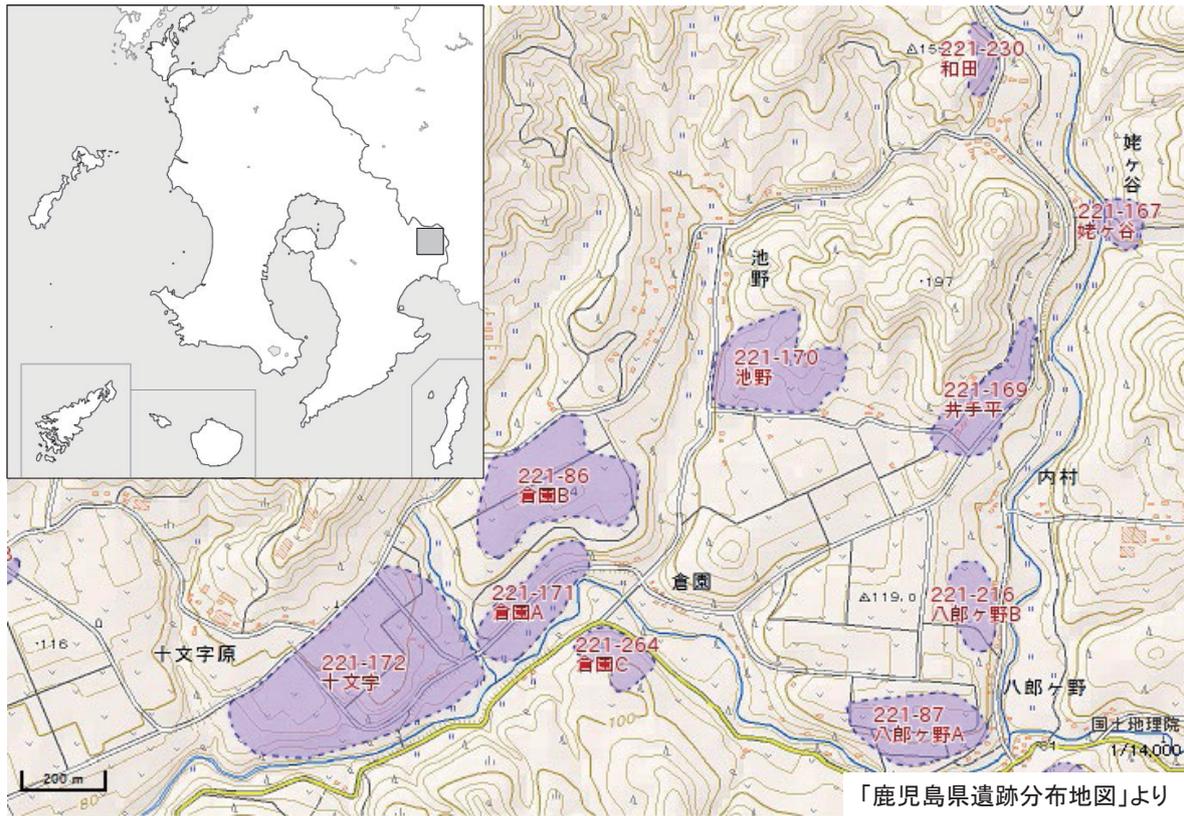
井手平遺跡の概要は、瀬戸口氏がまとめた『志布志の埋蔵文化財』の中に詳細が収録されており(瀬戸口1985)、これを引用したい。「八重地区の大原台地東端に位置する遺跡である。197m峰から大きく南に張り出す大原台地は、周辺集落の主な畑作地帯になっている。遺跡地は、峰に近い基部の東向き傾面地にあり、急崖となった眼下約30mの低地には前川が北から南に向かって流れ、町道が川に沿って走っている。遺跡地の標高は110m～120m線上にあり、八野小学校は北約200mの距離である」と、周辺の状況も含めてまとめている。現在、井手平遺跡とその周辺は、第1図に示すような遺跡分布となっている。

(2) 資料報告

①土器類

土器類は、147点が確認された。時代別に分類すると、縄文時代早期144点、縄文時代中期1点、不明2点となる。器形や文様などの特徴から、これらを分類し、1～8類として紹介を進めていきたい。個々の点数等は表1にまとめた。

1類としたものは(第2図1・2)、口唇部上端に深いキザミを施すことで、小波状を呈する



第1図 井手平遺跡の位置

種別	時代・時期	器形・器種等	部位	分類	資料点数	小計
土器類	縄文時代早期前葉	深鉢形	口縁部	1類	2	147
		深鉢形	口縁部	2類	12	
		深鉢形	胴部	1・2類	90	
		深鉢形	底部	1・2類	13	
		深鉢形	口縁部	3類	1	
		深鉢形	胴部	3類	1	
		深鉢形	口縁部	4類	5	
		深鉢形	胴部	4類	11	
	縄文時代早期中葉	深鉢形	口縁部	5類	1	
		深鉢形	胴部	5類	2	
		深鉢形	底部	5類	3	
		深鉢形	胴部	6類	1	
		深鉢形	底部	6類	1	
縄文時代早期後葉か	深鉢形	口縁部	7類	1		
縄文時代中期	深鉢形	口縁部	8類	1		
不明	深鉢形	胴部		2		
石器類	不明	石皿	-	-	1	9
		礫	-	-	8	
資料総点数						156

表1 井手平遺跡資料一覧表

特徴を有し、口縁部上端には縦位に近い斜位の刺突文を施す。胴部は貝殻条痕文が全面に施されるという特徴がある。口縁部資料2点全てを図化した。1・2は、口唇部上端が貝殻によるキザミを深く施すことにより小波状を呈して内面に段を有する。

2類としたものは(第2図3～13)、1類のような内面の段を有せず、口縁部外面にキザミを1段ないし数段程度施し、胴部は横位から斜位の貝殻条痕文が全面に施されるものである。今回は、口縁部の特徴から4つに細分した。2a類(第2図3・4)は、口縁部にヘラ状工具により2段のキザミが施されるもので2点全てを図化した。2b類(第2図5～8)は口縁部のキザミが1段のもので、4点全てを図化した。2c類(第2図9・10)は口縁部のキザミが貝殻の押圧ないし刺突により作出されているもので、2点全てを図化した。2d類(第2図11～13)は貝殻刺突が1段のものである。4点中3点を図化した。

14～19は1・2類の胴部に該当する。90点確認できた。19は粘土接合痕とも思えたが、器面の剥落とした。20～22は1・2類の底部片である。13点のうち3点を図化した。

3類(第2図23～24)は胴部に貝殻押引文が施されるものである。2点が確認され、全てを図化した。23の口唇部はていねいにナデられているが施文は見られない。

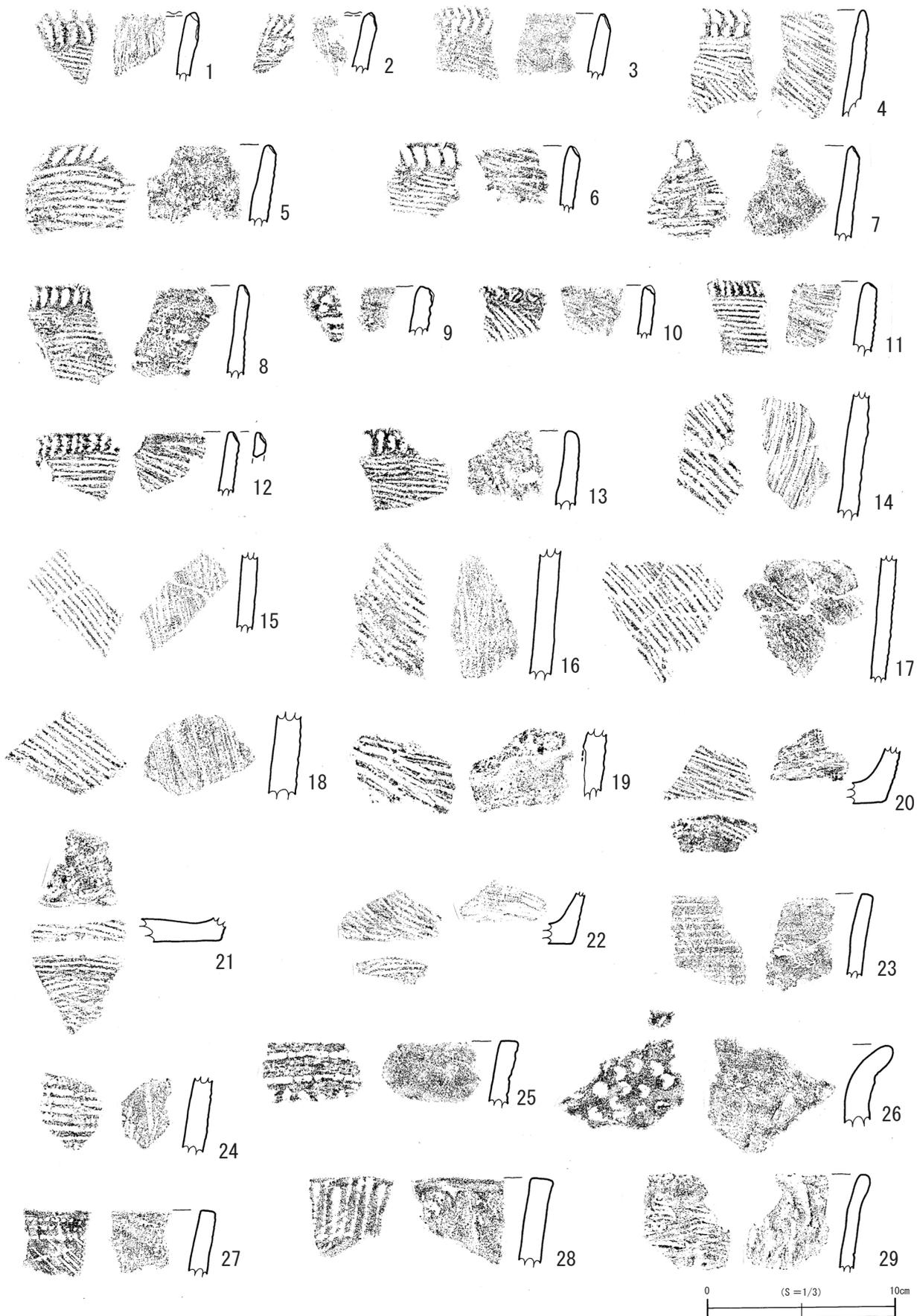
4類(第2図25～第3図32)は口縁部が外反し胴部に貝殻条痕を綾杉状に施すものである。16点が確認され、このうち8点を図化した。25にはカーボンが付着している。口縁部には横位の貝殻刺突文が2段施され、その下には斜位の貝殻刺突文が巡る。26は、竹管状工具により刺突文が3から4段程度不規則に施される。27は、胴部斜位の貝殻条痕文が口縁部施文に切られている。このことから施文順序は、胴部のち口縁部と言うことがわかる資料である。28は、口唇部上端両側がわずかに肥厚する。斜位の貝殻条痕文の後に横位の貝殻刺突文が2条施される。29は、口唇部上端をややケズリ、ナデによりほぼ平坦に仕上げられている。胴部は条痕のちにナデが施され、不規則な短い沈線を鋭利に施す。30～32は胴部片である。

5類(第3図33～36)は器面に貝殻刺突文を施すものである。6点中4点を図化した。33は、口唇部がナデによりやや丸みを帯び、器壁はナデによるやや強めの押さえ込みによって指頭状の凹み残り器厚が一定しない。施文は縦位の貝殻刺突文が間隔を開けて施され、部分的に横位の貝殻刺突文が見られるなど整合性を欠く。34は、ナデ後に貝殻刺突文を相交弧文状に施される。35は、貝殻刺突文が羽状に施される。36は底部接地面に木葉痕が残されている。

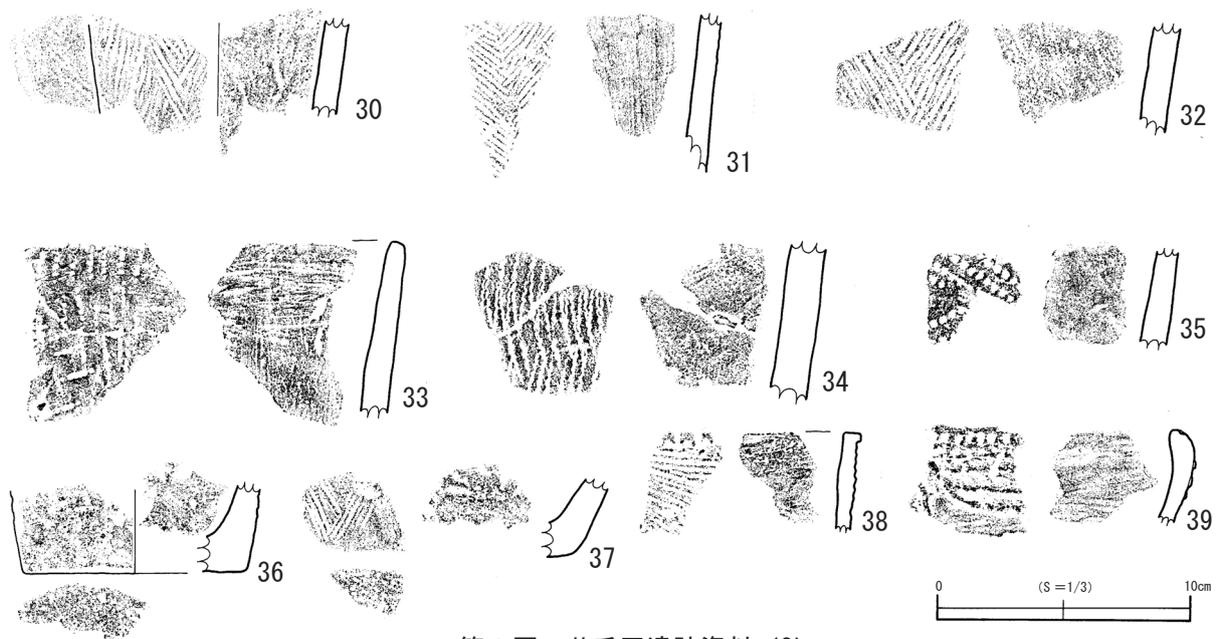
6類(第3図37)は2点中1点を図化した。37は貝殻条痕を羽状に施す。

7類(第3図38)は1点のみである。38は、口唇部上端に微隆帯を密接させその上に深い箱形のキザミが施される。胴部は横位の貝殻条痕が施される。

8類(第3図39)は縄文時代中期に属する。1点のみである。口縁部がキャリパー状を呈し胴部は膨らむと思われる。口縁部に微隆帯を4条横位に施し、下の微隆帯が上方へまとまる。各微隆帯間には丁寧なナデが施されている。



第2図 井手平遺跡資料(1)



第3図 井手平遺跡資料(2)

②石器類

9点が収蔵されており、内訳は、石皿1、礫8点である。石皿は図化していないが、砂岩製で大型のものである。

(3) 小結

井手平遺跡は、縄文時代早期前葉を中心とする遺跡であると思われる。特筆すべき資料としては、木葉痕のある底部資料第3図36であろう。5類は器面に貝殻刺突文を施すもので、下剥峯式土器に該当する。木葉痕は、押型文土器や桑ノ丸式土器に比較的多い傾向が指摘されているものである(前迫2006)。

下剥峯式土器を含めたこれら3者は年代的にも比較的近似しており、当該期の特徴の1つである可能性も考えられる。さらなる類例の増加が期待されると共に、植物の観点から周辺の自然相の解明も期待できる。

おわりに

昨年度に引き続き、瀬戸口氏の資料を紹介してきた。概観すると、縄文時代早期の資料が多い印象を受ける。現在、開発行為に伴う発掘調査においても、その傾向は窺え、当該期における志布志地域の遺跡の濃さが読み取れる。今後とも、基礎資料の図化について精進して取り組んでいきたい。

引用・参考文献

前迫亮一・前迫満子「南九州縄文土器の底部圧痕に関する覚書－縄文時代草創期・早期の資料集成－」

(『Archaeology From the South』, 2006年) 鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会
志布志町教育委員会(『志布志の埋蔵文化財』, 1985年)

番号	部位	文様・器面調整		色調		胎土							備考	
		外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	輝 石	カ ク セ ン 石	雲 母	砂 粒	小 礫		そ の 他
1	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○				○			
2	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○							
3	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○	○			○			
4	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○				○			
5	口縁部	貝殻条痕文	風化	灰茶褐色	赤茶褐色	○	○				○	○		
6	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文後ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○			○			
7	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	灰茶褐色	灰茶褐色	○	○	○			○	○		
8	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○							
9	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	灰茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
10	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	灰茶褐色	灰茶褐色	○	○							
11	口縁部	貝殻条痕文	条痕後ナデ	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○							
12	口縁部	貝殻条痕文	条痕後ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○			○			補修孔
13	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○				○			
14	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○				○		
15	胴部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	赤黄茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
16	胴部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	灰黄茶褐色	暗茶褐色	○	○	○				○		
17	胴部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	暗赤茶褐色	暗赤茶褐色	○	○				○	○		
18	胴部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○				○		
19	胴部	貝殻条痕文	剥落	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
20	底部	貝殻条痕文	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
21	底部	貝殻条痕文	貝殻条痕文後ナデ	黄茶褐色	赤茶褐色	○	○							
22	底部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○				○		
23	口縁部	貝殻押引文	ケズリ後ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○			○		○		
24	胴部	貝殻押引文	ケズリ後ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○	○						
25	口縁部	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	灰茶褐色	赤茶褐色	○	○		○					
26	口縁部	刺突文	ケズリ後ナデ	明黄茶褐色	黄茶褐色	○	○							
27	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
28	口縁部	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	暗黄茶褐色	黄茶褐色	○	○							
29	口縁部	強いナデ	強いケズリ	赤茶褐色	暗黄茶褐色	○	○		○					
30	胴部	貝殻綾杉条痕文	ナデ	黄茶褐色	暗黄茶褐色	○	○		○					
31	胴部	貝殻綾杉条痕文	ナデ	明赤茶褐色	暗灰茶褐色	○	○					○		
32	胴部	貝殻綾杉条痕文	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
33	口縁部	ナデ	ケズリ	灰黄茶褐色	暗褐色	○	○							
34	胴部	貝殻刺突文	ケズリ後ナデ	明黄茶褐色	明黄茶褐色	○	○					○		
35	胴部	貝殻刺突文	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○			○		○		
36	底部	貝殻刺突文	ナデ	黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○				○			
37	底部	貝殻条痕文	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○					○		
38	口縁部	貝殻条痕文	強いケズリ	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○							
39	口縁部	微隆帯	条痕後ナデ	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○		○		○			

表2 遺物観察表

(くろかわ ただひろ 本館専門員)